

# 日本リハビリテーション病院・施設協会

JAPAN ASSOCIATION OF REHABILITATION HOSPITAL AND INSTITUTION

# News



# Letter

# No.48

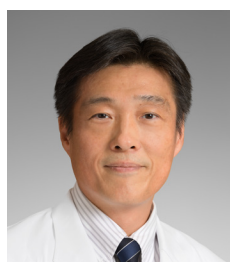
2023.08.01

発行者：一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会事務局



## 協会役員コラム

### 日本リハビリテーション病院・施設協会 理事 仲井 培雄 『漢方と割烹』



2014年度の創設直後より関わってきた地域包括ケア病棟は、当初自院の他病棟の機能を活かす懐の深い病棟でした。2022年度改定以降は、高齢虚弱“multimorbidity患者”を病棟で受け入れる、在宅でみる地域診療拠点を目指そうとなりました。

“multimorbidity患者”の特徴は介入のエビデンスに乏しいため、「漢方」の如く患者のQOL向上がアウトカムになります。RCTで得られた西洋医学の回復期リハビリテーション病棟とはこの点が決定的に異なります。また、救急対応も地域包括ケア病棟の特徴で

す。一般的に2次救急の受け入れでは、アンダートリアージの結果、より高次機能の院内転棟や3次救急等への再搬送を避けたいので、オーバートリアージになりやすいです。搬送時は高度急性期病院に行きがちになり、入院時は急性期一般病棟を届出ている施設では同病棟を選びがちに。一方、京都の「割烹」しかり、いつも診ている馴染みの高齢虚弱の“multimorbidity患者”であればトリアージの精度が上がり、地域包括ケア病棟でも安心です。地域包括ケア病棟を届け出る病院にとって、外来・在宅と救急の密な連携は今後要になるかもしれません。



## 研修会のお知らせ

### ● 理事が語るシリーズ 特別セッション (LIVE 配信)

#### 『地域リハビリテーションの取り組みと今後の展開～リハビリテーション専門職の立場から～』

【日 時】令和5年9月23日(土) 13:00～15:10

【内 容】地域リハビリテーションにおける地域連携や人材育成は、協会だけでなく職能団体においても課題となっています。地域リハビリテーションの未来を構築するため、理学療法士協会、作業療法士協会、言語聴覚士協会、それぞれの会長による地域リハビリテーションの展望に関する特別セッションを開催いたします。講演会の後は3協会長によるディスカッションも開催します。この貴重な機会を通じて、多職種を理解を深めるとともに、地域リハビリテーションの進展と共に未来の健康な社会を築くためのアイデアを共有しましょう。

【講 師】齊藤 秀之氏 (当協会外部理事/日本理学療法士協会 会長)

山本 伸一氏 (当協会外部理事/日本作業療法士協会 会長)

深浦 順一氏 (当協会外部理事/日本言語聴覚士協会 会長)

平田 好文氏 (当協会 常務理事/熊本託麻台リハビリテーション病院 理事長・院長)

【締切日】令和5年9月14日(木)

## ●【現地開催】第2回 事務一般職研修『医療・介護に携わる事務スタッフへ』

【日 時】令和5年9月29日（金）10：30～17：30

【内 容】病院・施設での事務業務は多岐にわたります。特にリハビリテーション分野においては、多くの専門職に囲まれたチームの中で、事務職として色々な役割を求められることとなり、経験の浅い若手時代は自らの仕事のあり方や役割に悩むことも多いと思います。また、直近3年間は外部との交流も限られ大変だったのではないのでしょうか。今回の研修は、他施設の見学とともに事務部門のあり方を学び、また同じ悩みを持つ人たちとの交流を通して自らの仕事のあり方を見つめ直すきっかけとしていただく、そんな研修を企画しました。

【会 場】霞ヶ関南病院（埼玉県川越市安比奈新田 283-1）

【講 師】齊藤 正身 氏（当協会会長／霞ヶ関南病院 理事長）

【締切日】令和5年9月20日（水）

※ 各研修会の詳細は、協会ホームページの [研修会] <https://www.rehakyoh.jp/workshop> をご覧ください。

## TOPICS

### ●【ご依頼】令和5年度会員施設調査のご協力について（正会員対象）

当協会では、毎年会員施設の実態を把握し、今後の協会事業に役立てることを目的として、正会員の皆様を対象に、「会員施設調査」を実施いたしております。全正会員様からの回答が必要となりますので、ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、何卒ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【協力依頼】 [https://www.rehakyoh.jp/wp/wp-content/uploads/2023/07/R5chousa\\_member.pdf](https://www.rehakyoh.jp/wp/wp-content/uploads/2023/07/R5chousa_member.pdf)

【調査期間】2023年8月1日（火）～11月30日（木）

【回答方法】下記の URL よりご回答をお願いいたします。

会員マイページログイン → <https://rehakyoh.net/>

### ● 調査・検証委員会からの調査結果報告

#### ○ 回復期リハビリテーション病棟退棟後の生活期リハビリテーションの効果の検討

##### 2017年・2022年調査結果報告

平成28年度より、「回復期から生活期までのリハビリテーション効果に関する実態調査」を実施しております。昨年度の調査結果において、回復期退棟後に生活期リハビリテーションの実施が、3か月後及び6か月後の BI・FIM・FAI・LSA の改善に寄与することが明確となりました。

#### ○ リハビリテーション科外来担当医の実態調査（2023年5月実施）結果報告

今年5月に「リハビリテーション科外来担当医の実態調査」を実施いたしました。回復期病院を主とした57施設85名の医師の回答をいただき、疾患病態別のリハビリテーション診療技術能力、要する診療時間や診療実人数等の実態が明らかになりました。また、定期的なりハビリテーションに関わる医師による外来診察があった方が有意にADLの改善を認めました。

各調査結果の詳細につきましては、会員専用閲覧ページに掲載しています。

会員専用閲覧ページ → <https://rehakyoh.net/start1>

\* 調査結果をご覧いただくには、会員 No、会員専用閲覧パスワードが必要です。

